

継続事業評価シート

評価実施日 令和2年3月31日

令和元年度(3年目)

事業コード	32	事業名	商工会マネジメント機能強化事業			戦略コード	4	戦略名	機動的・効率的な商工会		
担当部名	総務部	担当課名	総務・人材育成課	担当課長名	市井 仁	施策コード	16	施策名	変化に対応した組織機構の見直しと県連合会サポート機能強化		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景
社会経済情勢の変化により小規模事業者の経営環境が厳しさを増す中で、事業者ニーズに対応し商工会の使命を果たすことが求められており、各商工会・県連合会が一体となった組織体制が必要となっている。
2. 事業のねらい
商工会における管理職の権限や機能を明確化し、事務局管理体制の強化を通じて、きめ細かい日常的な業務の進捗管理、OJTなどの人材育成を行うことをねらいとする。
3. これまでの評価結果
副事務局長・事務長の設置により事務局の管理体制が強化され、商工会が「組織」として機能するようになった。また、職員個々の取組だけでなく、チームとしての成果が期待されるようになった。
4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応
研修等を通じ、管理体制のバラツキを解消し、組織機能の強化を図る。

【取組評価】

取組コード	取組	実績	必要性	有効性	効率性	総合評価
74	商工会事務局管理体制の見直し	副事務局長及び事務長を対象に、経営発達支援計画等の計画策定から実行段階までを管理する法定経営指導員を養成した。	a	a	a	A
75	個別対応から組織全体での対応へのシフト	個人目標と組織目標が連動し、一体のものとして管理・推進されるようになった。	a	a	a	A

評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)																	
取組コード						取組コード						取組コード					
指標名						指標名						指標名					
年度	H29	H30	R1	R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2	R3
目標						目標						目標					
実績						実績						実績					
達成率						達成率						達成率					
達成度						達成度						達成度					

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価
【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 【取組評価】の必要性が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合) a
〈評価の理由〉 副事務局長が事務局長を補佐し、商工会組織のマネジメント強化に寄与している。また、事務局長未設置会においては、事務長が事務局総轄者としての立場・権限・責任が明確となったことで、組織体制の強化につながった。
【有効性の観点】 事業目標の達成状況 【取組評価】の有効性が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合) a
〈事業の目標は達成されているかどうか〉 事務局長(事務長)、副事務局長、指導員・支援員それぞれの役割や責任が明確になり、職責を果たすことによって、組織として機能することにつながった。また、「組織」がこれまで以上に意識されるようになり、チーム支援による成果が見られるようになった。
【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 【取組評価】の効率性が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合) a
〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉 組織としての管理体制が強化され、内部における情報共有が効率的に行われるようになった。
2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 A
副事務局長・事務長の機能・役割が商工会に定着し、組織体制の強化につながっている。また、「チーム支援」の推進にもつながっている。
3. 課題
個人としての業績が「業績評価」により評価される一方、チーム支援による成果を評価する仕組みを検討していく必要がある。
4. 今後の対応方針(改善点)
個人としての業績を評価すると同時に、チーム支援による成果を評価する仕組みを研究する。(第2期商工会創生プラン(仮称)の検討事項とする)